次の積分を求めよ。

$$\int_0^\infty \frac{\sqrt{x}}{x^3 + 1} \mathrm{d}x \tag{1}$$

この広義積分を複素数上の積分として考える。

$$\int_0^\infty \frac{\sqrt{z}}{z^3 + 1} dz \qquad (z \in \mathbb{C})$$
 (2)

被積分関数  $\frac{\sqrt{z}}{z^3+1}$  に対して、積分経路を実軸上  $0\to R$  と半径 R の円周上  $R\to Ri$  と虚軸上  $Ri\to 0$  の 3 つの部分  $C_1,C_2,C_3$  からなる閉曲線 C とする。

この時、 $C_1$  上の積分  $\int_{C_1} \frac{\sqrt{z}}{z^3+1} dz$  は  $\int_0^\infty \frac{\sqrt{x}}{x^3+1} dx$  と一致する。 C 上の積分は次のような式となる。

$$\int_{C} \frac{\sqrt{z}}{z^{3} + 1} dz = \int_{C_{1}} \frac{\sqrt{z}}{z^{3} + 1} dz + \int_{C_{2}} \frac{\sqrt{z}}{z^{3} + 1} dz + \int_{C_{3}} \frac{\sqrt{z}}{z^{3} + 1} dz$$
 (3)

 $z^3+1=0$  を満たす複素数は  $z^3=-1=e^{(2n+1)\pi i}$  から  $z=e^{\frac{\pi}{3}i},e^{\pi i},e^{\frac{5\pi}{3}i}$  である。これらは関数  $\frac{\sqrt{z}}{z^3+1}$  の極となりえるが、R を十分大きな数とした時に C の内部に含まれるのは  $z=e^{\frac{\pi}{3}i}$  のみである。留数定理により  $\int_C \frac{\sqrt{z}}{z^3+1} \mathrm{d}z$  は  $z=e^{\frac{\pi}{3}i}$  の留数から求まる。

$$(z - e^{\frac{\pi}{3}i}) \times \frac{\sqrt{z}}{z^3 + 1} = (z - e^{\frac{\pi}{3}i}) \times \frac{\sqrt{z}}{(z - e^{\frac{\pi}{3}i})(z - e^{\pi i})(z - e^{\frac{5\pi}{3}i})} = \frac{\sqrt{z}}{(z - e^{\pi i})(z - e^{\frac{5\pi}{3}i})}$$
(4)

上記の関数は  $z=e^{\frac{\pi}{3}i}$  の時に値を持つので、1 位の極である。 この時の留数を求める。

$$\lim_{z \to e^{\frac{\pi}{3}i}} \frac{\sqrt{z}}{z^3 + 1} = \lim_{z \to e^{\frac{\pi}{3}i}} \frac{1}{2} \frac{z^{-1/2}}{3z^2} = \frac{1}{6} e^{\frac{5\pi}{6}i}$$
 (5)

よって、C上の積分は次のようになる。

$$\int_{C} \frac{\sqrt{z}}{z^{3} + 1} dz = 2\pi i \times \frac{1}{6} e^{\frac{5\pi}{6}i} = \frac{1}{3} \pi i e^{\frac{5\pi}{6}i}$$
 (6)

C は3 つに分かれるためそれぞれの積分を考える。

 $C_2$  は半径 R の円周上であるので、 $z=Re^{i\theta}$  で  $\theta$  が  $0\to \frac{1}{2}\pi$  の範囲の区間となる。  $\mathrm{d}z=iRe^{i\theta}\mathrm{d}\theta$  を利用し  $C_2$  上の積分を計算する。

$$\int_{C_0} \frac{\sqrt{z}}{z^3 + 1} dz = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\sqrt{Re^{i\theta}}}{(Re^{i\theta})^3 + 1} iRe^{i\theta} d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{iR^{\frac{3}{2}}e^{\frac{3}{2}i\theta}}{R^3e^{3i\theta} + 1} d\theta \tag{7}$$

$$\left| \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{iR^{\frac{3}{2}} e^{\frac{3}{2}i\theta}}{R^3 e^{3i\theta} + 1} d\theta \right| \le \int_0^{\frac{\pi}{2}} \left| \frac{iR^{\frac{3}{2}} e^{\frac{3}{2}i\theta}}{R^3 e^{3i\theta} + 1} \right| d\theta \tag{8}$$

$$= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{|iR^{\frac{3}{2}}e^{\frac{3}{2}i\theta}|}{|R^3e^{3i\theta}+1|} d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{|iR^{\frac{3}{2}}e^{\frac{3}{2}i\theta}|}{|e^{3i\theta}||R^3+e^{-3i\theta}|} d\theta \tag{9}$$

 $\theta \in \mathbb{R}$  について  $-1 \le |e^{-3i\theta}| \le 1$  となるので R が十分に大きい値であれば  $|R^3 + e^{-3i\theta}| > R^3 - 1$  である。これを利用し上の式を計算する。

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{|iR^{\frac{3}{2}}e^{\frac{3}{2}i\theta}|}{|e^{3i\theta}||R^3 + e^{-3i\theta}|} d\theta \le \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{R^{\frac{3}{2}}}{R^3 - 1} d\theta = \frac{R^{\frac{3}{2}}}{R^3 - 1} \cdot \frac{\pi}{2} \to 0 \ (R \to \infty)$$
 (10)

つまり、 $C_2$  上の積分は  $R \to \infty$  において 0 に収束する。

$$\lim_{R \to \infty} \int_{C_2} \frac{\sqrt{z}}{z^3 + 1} dz = 0 \tag{11}$$

次に  $C_3$  上の積分を考える。 $C_3$  は虚軸上の  $iR \to 0$  の区間である。そこで、z=it と置き、t が  $R \to 0$  に動く場合の積分として計算する。このとき、 $\frac{\mathrm{d}z}{\mathrm{d}t}=i$  であるので、 $\mathrm{d}z=i\mathrm{d}t$  である。

$$\int_{C_2} \frac{\sqrt{z}}{z^3 + 1} dz = \int_R^0 \frac{\sqrt{it}}{(it)^3 + 1} i dt = -i^{\frac{3}{2}} \int_0^R \frac{\sqrt{t}}{-it^3 + 1} dt$$
 (12)